

外国ルーツ青少年の教育スタート支援事業

公開シンポジウム

「外国ルーツ青少年への初期段階支援とは ― 安心して学ぶ、暮らす機会を支えるため ―」

日時：2024年2月21日（水曜日）15時00分～17時00分

方法：オンライン配信（Zoom ウェビナー）により実施

登壇者一覧

開会挨拶



狩野 功（かのう いさお）

（公財）日本国際交流センター理事長

海外7場所駐在を含め40年に亘る国際取引や各国での事業会社の経営並びに在外日本関連組織における公的活動を通じた知見を活かし、日本国際交流センター（JCIE）の諸活動を主導する。2023年4月に現職に就任する前は、1984年より三菱商事株式会社に勤務。金属資源事業を中心に、開発、投資、取引、経営に関わる業務を各国で歴任。2018年三菱商事理事欧州統括兼欧州三菱商事社長。2018年より日英21世紀委員会参加、2021年日本側コアメンバー、2022年より日本国際交流センター理事。1984年一橋大学商学部卒。2012年 Harvard Business School LFO 履修。

文科省代表挨拶



中野 理美（なかの りみ）

文部科学省 総合教育政策局 国際教育課長

平成7年、文部省入省。

平成30年、文部科学省地域学習推進課長。令和元年、文部科学省教科書課長。令和2年、文部科学省教育人材政策課長等を経て、令和5年7月より現職。

第1部 報告「学びの継続を支える実践～一人一人に向き合って」

登壇者



井手口 カレン 睦美（いでぐち かれん むつみ）

（特活）ABC ジャパン コーディネーター

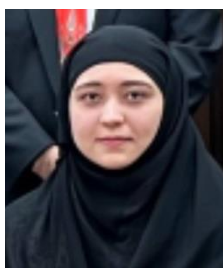
1993年横浜生まれ、日系ブラジル人3世として群馬県で育つ。母国語は日本語。現在は帰化して日本国籍。京都外国語大学在学中にブラジルへ留学しポルトガル語を学ぶ。卒業後、貿易会社に勤務。結婚後、行政書士資格を取得し、現在は群馬県太田市にて「am国際行政書士オフィス」を営む。2023年より、NPO法人ABC ジャパン群馬支部コーディネーターを兼務。



矢崎 理恵 (やざき りえ)

(福) さぼと21 学習支援室チーフコーディネーター・実施責任者

大学卒業と同時に青年海外協力隊に参加、日本語教師のキャリアスタート。帰国後、主として日本語学校で予備教育の日本語教育に携わる。2006 年より社会福祉法人さぼと21において学習支援室のコーディネーターを務め、難民の自立支援の活動にかかわる。東京都つながり創生財団理事。



白鳥 イルサハニーフ (しらとり いるさはにーふ)

(特活) アレッセ高岡 プロジェクトコーディネーター

パキスタンルーツで埼玉県生まれ富山育ちの23歳。幼少期に3年間ほどパキスタンの学校へ通っていた。石川県の大学で日本に住む外国人の生活・教育環境について研究しつつ、2023年度からNPO アレッセ高岡でプロジェクト・コーディネーターを務めている。

第2部 パネルディスカッション「多様な背景に配慮した初期段階支援の姿—みんなで支える体制へ」

モデレーター



新居みどり (にい みどり)

(特活) 国際活動市民中心 CINGA 統括コーディネーター

2004年ごろから多文化共生領域にかかわる。東京外国語大学、国際移住機関(IOM) コンサルタント等を経て2011年より現職。CINGAにて地域日本語教育、外国人相談事業等の統括的なコーディネーターを務める。

パネリスト



伊東 浄江 (いとう きよえ)

(特活) トルシーダ 理事

*トルシーダ(torcida)は応援という意味のポルトガル語

90年代、日本語ボランティアや学校での日本語指導に関わり外国人が日本に住むためには、言葉だけではない様々な問題があることを知る。2002年NPO法人トルシーダを立ち上げ、外国人集住地区の豊田市保見団地を活動拠点に、学校へ行っていない不就学の子どもの居場所づくりとしての教室を始める。近年では、日本語教室の出口支援として高校進学をサポートやキャリア教育にも注力している。



中山 迅一（なかやま としかず）

（特活）まなびと 理事長

1984年神戸市西区生まれ、須磨区で育ち、甲陽学院中学校・高等学校へ進学。京都大学文学部へ入学後、佛教大学教育学部へ編入。佛教大学在学中に神戸大学を拠点とする国際協力 NGO「PEPUP」に参加。塾講師や個別指導・家庭教師の経験を経て、2014年に「NPO 法人まなびと」を設立。



田中 宝紀（たなか いき）

（特活）青少年自立援助センター定住外国人支援事業部責任者 16才で単身フィリピンのハイスクールに留学。フィリピンの子ども支援 NGO を経て 2010年より現職。海外にルーツを持つ子どもたちのための専門家による教育支援事業「YSC グローバル・スクール」を運営する他、日本語を母語としない若者の自立就労支援に取り組む。文科省「中央教育審議会」臨時委員（初等中等教育分科会）、日本ユネスコ国内委員会委員他。著書『海外ルーツの子ども支援 言葉・文化・制度を超えて共生へ』（青弓社、2021）



松本 雅美（まつもと まさみ）

（学）ムンド・デ・アレグリア学校 校長

2003年私財を投じて「ムンド・デ・アレグリア学校（歓びの世界）」を設立。「すべての子どもたちに学ぶ歓びを」を教育理念に掲げ、母語教育で「豊かな心」を、日本語教育で「生きる力」を育み、子どもたちが自らの将来に夢を持ち、未来を切り開いていける教育を実践。日本社会に貢献できる人材育成を目指している。ペルー共和国より文化勲章（2011年）、令和3年外務大臣表彰、令和5年文化庁長官表彰など受賞。

閉会挨拶



毛受 敏浩（めんじゅ としひろ）

（公財）日本国際交流センター執行理事

慶応大学法学部卒。米国エバグリーン州立大学公共政策大学院修士。兵庫県庁で10年間の勤務後、1988年より日本国際交流センターに勤務。多文化共生・移民政策、草の根の国際交流調査研究など多様な事業に携わる。現在、文化庁文化審議会日本語教育小委員会委員、新宿区多文化共生まちづくり会議委員。これまで総務大臣賞自治体国際交流表彰選考委員、内閣官房地域魅力創造有識者会議委員等を歴任。著書に『人口亡国－移民で生まれ変わるニッポン』（朝日新書、2023）、『移民がひらく日本の未来』（明石書店、2020）等多数。